

講義名	幼児英語指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
校地	鈴鹿大学こども教育学部		
単位数	2		
科目種別	共通専門教育		
対象学科・年次	こども教育学科2年		
必須/選択	選択		

## 担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 天野 剛至	国際人間科学部

科目区分等（科目区分、単位、対象学年、必修、選択の別を含む）	共通専門教育 2単位 こども教育学科2年 選択
講義テーマ	幼児期の言語習得（理論）について理解し、適切な英語指導法（実践）を身につける
講義の到達目標	本科目履修後、受講生は、 1) 第二言語習得論に基づいて幼児期の言語学習の発達過程を理解している； 2) 英語の発声・発音・韻律について正しく理解し、幼児の英語活動の指導に役立てることができる； 3) 幼児の英語活動によく用いられる教材（歌・絵本など）に親しんでいる。

## ディプロマポリシー

	「土台となる力」とは、基礎教養と専門領域の知識・技能を修得し、教育者・保育者の基本である豊かな人間性と総合専門力、真理を追究し続ける情熱を持っていることである。	「生きる力」とは、主体的に自らの課題を発見し解決する想像力を持ち、幅広い教育実践力を活用できることである。	「つながる力」とは、多文化共生時代の中の一員として、地域・世代・文化の違いを認め合い、ともに生きていくことのすばらしさを分かち合える感受性と、自らの考えや知識・技能を論理的・芸術的表現で伝え、他者と協働できることである。
選択	△	○	◎

## ディプロマポリシー（専攻1）

	保育・幼児教育の現場でリーダーシップを発揮できる幅広い知識と実践力を持っていること。
選択	△

## ディプロマポリシー（専攻2）

	学校・保健教育の現場でリーダーシップを発揮できる幅広い知識と実践力を持っていること。
選択	△

## 講義計画

回	内容
第1回	導入 本科目の目的・構成・到達目標・クラスルールなどについての説明（必ず出席すること！）&ループリック評価 （理論）第二言語習得論とは （実技）発声の仕方 （教材紹介）歌(1) Hello Song
第2回	（理論）幼児期の言語学習 - 第一言語習得(1) 3歳まで

	(実技) 韻律(1) アクセント (教材紹介) 歌(2) Make a Circle
第3回	(理論) 幼児期の言語学習 - 第一言語習得(2) 就学前と学童期 (実技) 韻律(1) アクセント(続き) (教材紹介) 絵本(1) The Very Hungry Caterpillar by Eric Carle (1969)
第4回	(理論) 幼児期の言語学習 - 第一言語習得(3) 行動主義 (実技) 韻律(2) リズム (教材紹介) 歌(3) Itsy Bitsy Spider
第5回	(理論) 幼児期の言語学習 - 第一言語習得(4) 生得説 (実技) 韻律(2) リズム(続き) (教材紹介) 絵本(2) No, David! by David Shannon (1998)
第6回	(理論) 幼児期の言語学習 - 第一言語習得(5) インターアクション (実技) 韻律(3) イントネーション (教材紹介) 歌(4) Hokey Pokey
第7回	(理論) 幼児期のバイリンガリズム (実技) 韻律(3) イントネーション(続き) (教材紹介) 絵本(3) I Can Handle It by Laurie Wright (2016)
第8回	幼児英語教育現場の見学
第9回	(理論) 英語での授業の進め方 (実技) 発音(1) 母音 (教材紹介) 歌(5) Baby Shark
第10回	(理論) 英語を聞いて行動する (実技) 発音(2) 子音 (教材紹介) 絵本(4) Green Eggs and Ham by Dr. Seuss (1960)
第11回	(理論) 英語を聞いて物を作る (実技) 音節 (教材紹介) 歌(6) The Wheels on the Bus
第12回	(理論) スピーキングの初期段階 (実技) 絵本の読み聞かせ(1) (教材紹介) 絵本(5) Five Little Monkeys Jumping on the Bed by Eileen Christelow (1989)
第13回	(理論) 思い通りに英語を話す (実技) 絵本の読み聞かせ(2) (教材紹介) 歌(7) Five Little Monkeys Jumping on the Bed
第14回	発表(期末試験)準備
第15回	授業発表(期末試験) まとめ ルーブリック評価&レポート提出

講義の目的・概要	昨今、幼稚園・保育園・認定こども園において英語活動への期待が高まりつつある。また、三大都市圏や地方中枢拠点都市圏ではインターナショナル(英語)プリスクールの需要が伸びており、こども教育学部学生にとっては将来の勤務先の選択肢の一つとなりうる。こうした現場のニーズに十分に対応するには、単に経験に基づいたその場しのぎの指導ではなく、言語習得の理論に基づいた適切なアプローチが不可欠である。そこで、本科目では、第二言語習得論に基づいて幼児期の言語学習の発達過程について学ぶとともに、指導の際に重要な英語の発声・発音・韻律について正しく理解し、その上で幼児の英語活動によく用いられる教材(歌・絵本など)に親しむことを目的とする。各回の授業では、幼児英語指導の理論と実践をバランスよく習得していく。受講生間のインタラクティブな活動も多いので、授業には積極的に参加されたい。
事前/事後に受講してほしい講義	事前受講してほしい科目: 共通科目英語 事後受講してほしい科目: 英語関連科目全般
学習評価の方法・基準	定期試験を行う(筆記試験) 授業中の取り組み 60% 学期末試験(実技) 30% レポート 10%
教科書・テキスト	絵本、歌(動画を含む)を使った自主テキスト。その都度配布。
参考図書・指定図書	ライトバウン&スバダ・著、白井恭弘&岡田雅子・訳『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』(岩波書店 2014) ISBN: 9784000053280 2,800円(税別) スラタリー&ウィリス・著、外山節子・日本語版監修『子ども英語指導ハンドブック—指導者の養成・自習のために』(オックスフォード大学出版局 2003) ISBN: 9784010646021 絶版(中古本がインターネットで入手可能)
その他	プレゼン(模擬授業)やグループワークのアクティブラーニング要素を含む。 将来幼児英語に携わりたい者には授業で使用する絵本の購入を勧める。
オフィスアワー	A317研究室 毎週金曜日(14:40-16:10)
講義外学習の指示	シットコム・ホームドラマ『フルハウス』『愉快的シーバー家』などを見て、日常生活の表現や親子の会話に注目するとよい。ドラマ『glee/グリー』やオーディション番組『America's Got Talent』などを

見て、ポピュラーな洋楽を歌えるようになるまで覚えたい。また、受講期間中はEテレ「えいごであそぼ with Orton」も見ること！

UP↑

✕ ウィンドウを閉じる

講義名	モータースポーツマネジメント		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
校地	鈴鹿大学		
単位数	2		
科目種別	スポーツビジネス・観光ビジネス領域共通		
対象学科・年次	国際学科2年		
必須/選択	選択		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 富本 真理子	国際人間科学部
准教授	郭 育仁	国際人間科学部

科目区分等（科目区分、単位、対象学年、必修、選択の別を含む）	スポーツビジネス・観光ビジネス領域共通 2単位 国際学科2年 選択
講義テーマ	モータースポーツと地域社会の関係を通して、私たち市民が参画し創造する地域社会の在り方を探る。
講義の到達目標	1. モータースポーツに関する基礎知識を身につける。 2. 市民としてモータースポーツを通じて、いかに地域社会に参画、創造しうるかを考察できる。 3. モータースポーツマネジメントに関わる地域の諸課題を自ら発見し、その解決策にアプローチする。

## ディプロマポリシー

	社会人としての必要な教養、コミュニケーション能力およびホスピタリティマインド（おもてなしの心）を有すること。	グローバルな視野を有すること。	他者や異文化を尊重する心を持ち、グローバル化の進む社会で共に生きる能力を有すること。	時代の変化や社会のニーズを踏まえ、さまざまな課題に対応して、地域貢献できる実践的な知識とスキルを有すること。	実践で役立つビジネスマネジメント能力と、グローバル社会で求められる多文化共生に必要な知識を有すること。
選択	○	◎	○	◎	○

## ディプロマポリシー（専攻1）

無し	無し
----	----

## ディプロマポリシー（専攻2）

無し	無し
----	----

## 講義計画

回	内容
第1回	モータースポーツマネジメント論とオリエンテーション： 授業の進め方について説明し、本学で取り組むモータースポーツマネジメントについて理解する。

第2回	モータースポーツの聖地鈴鹿 鈴鹿市とモータースポーツの関係について学ぶ。
第3回	モータースポーツの基礎知識 モータースポーツについての基本的な知識を学びます。
第4回	鈴鹿サーキット F1日本グランプリ、鈴鹿8耐などで有名な鈴鹿サーキットについての知識を学ぶ。
第5回	鈴鹿サーキットバックヤードツアー： モータースポーツの現場を体感する
第6回	鈴鹿サーキットバックヤードツアー： モータースポーツの現場を体感する
第7回	鈴鹿サーキット×キャリア形成： 鈴鹿サーキット内の各施設の概要について知る。
第8回	モータースポーツと地域社会： 鈴鹿モータースポーツ友の会の活動について
第9回	モータースポーツと地域社会： 鈴鹿モータースポーツ友の会の活動について学ぶ。
第10回	鈴鹿市×モータースポーツ： 鈴鹿市のモータースポーツ政策について知る。
第11回	モータースポーツ振興に取り組む産学官連携のあり方： モータースポーツの世界とビジネスのおもしろさ /SUZUKA産学官交流会における鈴鹿大学とのスライダプロジェクトへの取り組み
第12回	制覇せよ 世界最高峰レース～マン島・オートバイにかけた若者たち～ (DVD鑑賞) 日本にモータースポーツなかったころのモータースポーツにかけた若者たちの挑戦について学ぶ。
第13回	不屈のまち工場 走れ 魂のバイク (DVD鑑賞) 鈴鹿8耐に参戦した町工場の人々の思いからモータースポーツの魅力について考える。
第14回	鈴鹿市×モータースポーツ： 鈴鹿市のモータースポーツ政策について知る。
第15回	まとめ モータースポーツに関する知識と理解を総括する

講義の目的・概要	<p><b>目的</b> モータースポーツと地域社会の関係を通して、私たち市民が参画し創造する地域社会の在り方を探り、地域社会に貢献できる能力を身につけることです。 モータースポーツとは、人間の筋肉以外の機械的なモーターやエンジンなどの原動機を使用して稼働する乗り物を用いて行われる競技・スポーツで、競技ランクや競技種別ごとに定められたレギュレーションに従い、速さを競う競技を言います。また、実際には陸上を走る四輪自動車やモーターサイクル（オートバイ）などの車輛を使用したものが一般的で、「自動車競技」や「オートバイ競技」を指します。なお、本学のある鈴鹿市は日本で唯一、「モータースポーツ都市宣言」（平成16年12月24日）を行っている市です。</p> <p><b>概要</b> 日本国内唯一の F1日本グランプリを開催する鈴鹿市の地の利を活かし、鈴鹿サーキット、行政、商工会議所、民間団体の有識者や実務家たちから現場の実務を学び、本学スポーツビジネス領域及び観光ビジネス領域講師陣の協働のもとで、モータースポーツに関わる基礎知識と活用事例を具体的に習得していきます。</p> <p><b>授業方法</b> 体験学習、調査学習、コミュニケーションカードの利用などアクティブラーニングを取り入れます。</p>
事前/事後に受講してほしい講義	<p>事前に受講してほしい講義：スポーツマネジメント、観光概論Ⅰ/Ⅱ 事後に受講してほしい講義：スポーツマーケティング論、観光政策・行政論</p>
学習評価の方法・基準	<p>定期試験(筆記)は行わない。 レポート試験45 % 毎回のワークシート45% (また講義の到達目標に基づいた要点の再確認や問題点の解説といったフィードバックを行う) ルーブリック10% (講義の到達目標に基づいて自己評価する)</p> <p><b>評価基準：</b> レポート試験に関しては、授業で扱ったいくつかのテーマから受講生の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての考えを問うこととする。他の受講生の発表や授業内の討論を活かして論理的説得力をもって記述されているかを評価する。 毎回、その回の授業の内容に関係するコミュニケーションカードの提出を課します。授業内容の理解度に応じて、0～3点で評価する。それらと、期末レポート提出者のみを成績評価の対象とする。</p>
教科書・テキスト	なし

参考図書・指定図書	田中 詔一 『F1ビジネス—もう一つの自動車戦争』角川書店、2006年、740円（税抜） 三重県総合博物館 『SUZUKA 夢と挑戦のステージ～ホンダのF1と鈴鹿サーキット～』 2015年、926円（税抜）
その他	講義の進捗状況または外部講師との調整次第で、テーマまたはスケジュールを変更する場合がある。 鈴鹿サーキット見学の際は、実費（往復交通費、見学費用等）を徴収する。
オフィスアワー	富本 A407研究室 毎週 月・火・木曜日（12:15～12:50） 郭 A413研究室 毎週 月・火・木曜日（12:10～13:00）
講義外学習の指示	本授業を理解し、到達目標を達成するためには、参考文献・資料にあたり、予復習1時間程度、積極的に授業外の学習を進める姿勢が望まれる。



✕ ウィンドウを閉じる

講義名	鈴鹿学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
校地	鈴鹿大学		
単位数	2		
科目種別	総合		
対象学科・年次	国際地域学科1年		
必須/選択	選択		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 富本 真理子	国際人間科学部
教授	木之内 秀彦	国際人間科学部
教授	今光 俊介	国際人間科学部

科目区分等（科目区分、単位、対象学年、必修、選択の別を含む）	総合 2単位 国際地域学科1年 選択
講義テーマ	鈴鹿市の地域資源や地域課題をグローバルな視点で理解を深めながら考察し、その活用や解決策を主体的に考えることで地域貢献や、自らの興味やキャリアを考える機会とする。
講義の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 鈴鹿市の地域資源や施策に対する理解を深め、情報収集力を身に付ける</li> <li>2 地域資源の活用方法を考え、主体的に表現することで、提案力を身に付ける</li> <li>3 地域貢献を通じて自己のキャリアプランにフィードバックする</li> </ol>

## ディプロマポリシー

	国際社会・文化に関する広範な知識を身につけ、世界的な視野をもって地域の課題の発見と解決ができる。	他者との円滑なコミュニケーションができ、社会で与えられた役割を、他者と協同で行うことができる。	社会人としての高度な教養を身につけ、主体性をもって行動することができる。
選択	◎	○	○

## ディプロマポリシー（専攻1）

	無し
無し	

## ディプロマポリシー（専攻2）

	無し
無し	

## 講義計画

回	内容
第1回	イントロダクション（カリキュラムの進め方・教員の紹介等） 講義のねらいや進め方、教員の紹介と合わせて、鈴鹿市の概要について学習します。
第2回	鈴鹿市の概要

	鈴鹿市の産業（製造業、農・水産業、伝統産業）を中心にその概要を学びます。
第3回	伝統工芸・伊勢型紙を使ったまちづくり 伝統工芸とゲストハウスという新しい組み合わせから、今後のまちづくり事業を考えます。
第4回	鈴鹿サーキットの取り組み 鈴鹿サーキットの概要や取組、催事などについて学びます。
第5回	鈴鹿市の外国人施策 鈴鹿市内の在住外国人の状況、国際交流施策、生活支援策などについて学びます。
第6回	AGF鈴鹿の取り組み 人と社会の未来に貢献する嗜好飲料メーカーを目指して地域貢献の取組について学びます。
第7回	鈴鹿の酒造り 昔ながらの伊勢杜氏の伝統を引継いだ鈴鹿で唯一の蔵元の酒造りのこだわりと地域との関わりについて学習します。
第8回	鈴鹿市の子育て支援活動・こどもの健康づくり 子育て支援活動に関する意識調査、鈴鹿市の子育て支援活動について学び、鈴鹿市のこどもを中心とした健康づくり「ランニングバイク」の普及について考えます。
第9回	鈴鹿の食（スイーツ）・農業（茶） 三重県のお茶生産量は全国第3位。中でも鈴鹿市は県内でトップクラスの生産量を誇っています。お茶資源を活用した地域貢献について考えます。
第10回	大黒屋光太夫の波乱の人生から学ぶ 鈴鹿出身の船頭、大黒屋光太夫（だいくやこうだゆう）の10年にわたる漂流とロシア抑留の波乱の人生から様々な教訓を学び、さらにそれをヒントに社会貢献の在り方についても考えます。
第11回	鈴鹿大学学長に聞く 学びを通して社会に貢献できる大学に進化し続ける大学の取り組みについて学びます。
第12回	鈴鹿市における多文化共生保育の取り組み 多文化共生保育に関する意識調査、鈴鹿市における多文化共生保育の紹介、「文化の違い」をめぐる保育実践（グループワークによる事例検討）を行います。
第13回	鈴鹿市観光協会 モータースポーツの聖地として世界的に有名である鈴鹿市の、観光資源と観光政策について学びます。
第14回	公民館の役割 鈴鹿市の公民館の活動を知ることにより、市民としての役割を学びます。
第15回	まとめ 授業による理解度を把握する。

講義の目的・概要	現在の大学は、在学生のみならず、地域コミュニティの中核的存在となれるよう、機能強化が求められています（文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業））。「鈴鹿学」は、そのような背景から、鈴鹿大学が「地域に必要とされる大学」になるために開設された科目です。地域貢献は地域のためのみならず、情報収集や分析・提案を通じて、学生自らのキャリアプランを検討するためにも大いに役立ちます。  そこで講義では、観光、ビジネス、スポーツ、教育、食など、専門分野の異なる講師陣（ゲスト含む）により、鈴鹿市内にある「地域資源」に関連する話題提供を行います。受講者には、鈴鹿市の地域資源を地域貢献や自らの進路にどう生かすか、その活用のあり方について毎回、双方向型の「アクティブラーニング」で考えていただきます。また、毎回の授業に関する優秀なコメントについては、大学の公式facebookに掲載することになります。
事前/事後に受講してほしい講義	キャリアデザインⅠ・Ⅱを履修することが望ましい
学習評価の方法・基準	定期試験は行わない。 講義内でのワークおよび大福帳の内容にて評価する（100%）。毎回、適宜フィードバックを行い、重要ポイントについては、講義内で指導を行う。 評価基準：鈴鹿の地域資源活用に対する「情報力」や「提案力」ならびに「自己のキャリアプランニング」の到達度を評価する ■基準1 鈴鹿市の地域資源や施策に対する理解を深め、情報収集力を身に付けられたか。 ■基準2 地域資源の活用方法を考え、主体的に表現することで、提案力を身につけられたか。 ■基準3 地域貢献を通じて自己のキャリアプランにフィードバックできているか。
教科書・テキスト	なし
参考図書・指定図書	なし
その他	なし
オフィスアワー	富本 : A407研究室 毎週木曜日 (12:15~12:50) 今光 : A414研究室 毎週木曜日 (13:00~14:30) 木之内 : A301研究室 毎週火曜日 (12:10~13:00)
講義外学習の指示	取り扱った内容について毎回、現地情報や関連情報を集めるなど、次の講義までに復習しておくこと（復習に要する時間：1~2時間）



